

発表概要【午前部】

校名	<p style="text-align: center;">ステージ発表</p> <p style="text-align: right;">テーマ(上段) 及び 内容(下段)</p>
笠岡工業	<p>ドローンで海を守る ～陸から空へ～</p> <p>今、地域貢献で私たちができることを考え、課題研究で学んだドローンを使って地域連携を行っている。海のアマモ場再生事業をはじめ、SDGs を意識して、市、企業と連携しながら活動している。また、学校の特色を生かした活動として、保育園や中学校の出前授業に土木の実習内容をスライドで見せたり、実際にドローンを操作したりし、遊び要素も含めながら笠岡工業高校の魅力発信に努めている。</p>
邑久	<p>チョウの集まる庭づくりと生き物観察会</p> <p>昨年度、渡りをするアサギマダラや希少なジャコウアゲハが集まるように、アサギマダラが集まるフジバカマやジャコウアゲハの幼虫の食草であるウマノスズクサを、地域の方の協力で校内に移植した。アサギマダラは飛来しなかったが、ジャコウアゲハは飛来し幼虫の繁殖に成功した。今年度はその活動を引き継ぎ、多様なチョウの飛来とその幼虫の観察を目標にチョウの集まる庭を作り、地域の小学生を対象とした生き物観察会を実施した。</p>
勝山（蒜山）	<p>蒜校 RPG ～地域を変えるための、いくつかの失敗～</p> <p>「蒜山校地での3年間は、まるで RPG (ロールプレイングゲーム) みたいだ」…本校地3年生がつぶやいた言葉だ。様々なアビリティ(能力、才能)を持った仲間と協働し、時には失敗を重ねながら成長していく。今年は、全員力を結集してエンディングに向かっている3年生と、自ら選んだプロジェクトと今まさに格闘している最中の2年生から、蒜山校地の「地域を変えるための、いくつかの失敗」について発表したい。</p>

校名	<p style="text-align: center;">ポスターセッション(前半)</p> <p style="text-align: right;">テーマ(上段) 及び 内容(下段)</p>
岡山操山	<p>ゲームと学習能力向上の関係性</p> <p>私達の研究テーマは「ゲームと学習能力向上の関係性」である。一般的に娯楽ゲームは子供の成績に悪影響を与えると危惧されている。しかし、「勉強に手がつかなくなるほど」の影響を持つゲームを逆手に取り、ゲームを学習材料として活用すると学習能力向上に寄与するのではないかと、もしそのようであれば具体的にはどのような影響があるのかを研究することにした。</p>
岡山一宮A	<p>ごみに価値を！～アップサイクルの可能性～</p> <p>果物のかけ袋の長所を活かしたアップサイクル方法が実用化できれば、使い捨てられる量が減り、ゴミの削減につながるのではないかと思い、研究を始めた。農家の方へのインタビューや文献調査をし、果物のかけ袋には防水・UV カット・防虫・高温抑制・色褪せ防止・保護などの効果があり、この長所を活かしたアップサイクル方法を考え実用化し、使い捨てられる量を減少させたい。</p>
岡山工業	<p>池田動物園内の施設修繕～地域との連携～</p> <p>令和2～5年度までの4年間で動物園内の修繕活動に取り組んだ内容をまとめたものである。生徒が動物園担当者の方から修繕依頼を受け、学校に持ち帰り、思考・設計し製作した。鳥かごの改修を始めとして、数多くの作業をしていく中で、予期せぬ事態が発生し、失敗と提案を繰り返して課題に取り組み、ものづくりの難しさを経験した。依頼者との協働に苦勞する場面もあり、要望を聞く力や企画力等も問われる取組であった。</p>
岡山御津	<p>ミツの奇祭「はなよ」、40年ぶりの復活でミツけたミツの宝</p> <p>岡山御津高校がある御津金川地域には「はなよ」という奇祭が存在していた。40年前までは毎年当然のように行われていたが、最近ではその伝統文化が途絶え、噂話程度で伝承され、「はなよ」の存在が住人の記憶から薄れ始めていた。そこで、岡山御津高校の生徒が立ち上がり、「はなよ」という存在を広め、実際に秋祭りで新しい形で復活をさせるまでの取組みを発表する。発表中に「はなよ」が出没するかも？</p>
倉敷青陵A	<p>協調学習で自分の意見を深めるために取り組みやすいグループの構成とは？</p> <p>学校の授業で行われるグループワークにおいて、どのようなグループをつくれば有意義なものにできるかについて研究した。特にグループを構成するメンバーの関係性に着目して研究を行った。</p>

倉敷南 A	<p>こころのかだい いっしょにりかい</p> <p>小学校教諭を目指す生徒4名で小学生の心理的発達における課題を研究した。「小1プロブレム」「ギャングエイジ」「思春期」「10歳の壁」等の発達課題についてインターネット、小学校の先生方との対談、書籍などを活用して研究し、課題解決には、「大人と子供の相互理解」が関係していると結論づけた。</p>
玉島 A	<p>売上向上のための人間の心理</p> <p>地元玉島地域を盛り上げるために私たちに何ができるのかを考え、玉島商工会議所主催のイベントの運営に関わった。その中で、私たちが興味のある人間の心理を用いた販売方法について調べるため、サンドイッチ法やバンドル効果を取り入れた商品販売についてのアンケートを実施し、その結果を考察した。</p>
津山 東	<p>知和の輪 ～こどもと高齢者のパイプ役に～</p> <p>高齢化・過疎化が進む県北部の中山間地域等において、地域の抱える課題を解決するために様々な取組がなされている中、高校生のチカラ(斬新な発想、世代間をつなぐ力など)によって、持続可能な地域社会づくりを目指すことに取り組んだ。「健康・福祉」分野では、知和地域について調査を行い、課題を見出し、昨年度の先輩たちの取組を踏まえ、課題の解決策を提案・実践してきた。その成果を発表する。</p>
玉野 光南	<p>私達にできること</p> <p>玉野光南高校2年次生有志は、身近にある問題から解決アイデアを見出し、持続可能な地域を作っていくために SDGs に関わる様々な活動を行っている。今年度は企業と協力し、制服の再資源化や、子ども服を難民におくる活動などを行った。これらの活動を通じ、服がもつ力や衣類のリサイクルに対する意識が高まり、私達が得た新しい学びや課題解決に向けて行った考察について紹介したい。</p>
井原	<p>井原の有名人×マニア</p> <p>井原高校では、地元・井原を盛り上げるために、井原ID(井原市の魅力)×自分ID(自分らしさ)を考え、課題解決をしていく活動をしている。私たちはアニメ・声優・ゲームなどが好きなマニア(オタク)である。そこで、『井原の有名人×マニア』と題し、井原市出身の有名人に協力をお願いし、地元・井原の課題をどのようにして解決していけるかを念頭に活動に取り組んでいる。</p>

<p>総社南 A</p>	<p>企画した英語学習ボランティアの活動報告</p> <p>小学生のみんなに英語学習の楽しさを知ってもらうため「Let's study with ジャミ高校生」というイベントを夏休みに開催した。目標としたのは、例年よりもグレードアップすること。そのために、小学生の英語力をリサーチした上での企画発案をはじめ、高校生だけで準備を進めた。当日は学びに遊びを加えたお買い物ゲームや美術に触れる折り染め体験などで、小学生の集中力が保てるように工夫した。</p>
<p>邑久</p>	<p>ふるさと納税 ～納税額アップに向けた提言～</p> <p>全国の応援したい自治体に寄付できる「ふるさと納税」制度。制度開始後、ふるさと納税による納税額は増え続けている。そこで、学校の所在地である瀬戸内市に加え、ふるさと納税による納税額が岡山県第1位の吉備中央町、新たな取組を展開している備前市へ取材に伺った。取材や調査を通して分かった自治体ごとの取組をまとめ、高校生が考える納税額アップに向けた提言を行う。</p>
<p>鴨方 A</p>	<p>私が描く理想の鴨方高校像 ～地域とともに～</p> <p>本校の「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」等の授業で様々な PBL や体験活動を行う中で、ふと「鴨方高校がより魅力的な学校になるには、どんな工夫が必要だろうか」という着想を得た。今以上に「地域とともに歩み、地域から信頼される学校」になるための課題を様々な角度から検証・分析するとともに、解決に向けた具体的な取組案や実践例について紹介していく。</p>
<p>矢掛 A</p>	<p>みんなに届け！ 矢高の魅力！！</p> <p>矢高には、探究コースの豊富な「進学プログラム」や、総合コースの地域探究学習「やかげ学」、地域ビジネス科の地域と連携した「商品開発」など、魅力的な活動が多くある。しかし、中学生への認知度は低く、矢掛高校の魅力が伝わっていない。これらの課題を解決するために「学校案内」を私たちの視点で変更し、様々な広報資料を作成した。これらの取り組みを中心に今後、矢掛高校をどのように盛り上げていくのかを発表する。</p>
<p>井原中学校</p>	<p>ワーク&ライフ職場体験 ～令和型 職業体験を通した PBL 学習～</p> <p>コロナ禍において、地元地域での訪問型職場体験が難しい時期に、職場体験をどのように行っていくか市教委等と連携をしながら活動内容を考えた。企業の理念や仕事内容を把握し、担当者から出される課題に対して、中学生の視点で生徒一人一人が課題解決案を企画した。その企画スライドを、企業の担当者・保護者に発表して、面接も実施した取り組みである。</p>

校名	ポスターセッション(後半)	
	テーマ(上段) 及び 内容(下段)	
岡山一宮B	<p>外国人の方を受け入れて地域活性化</p> <p>地方の新たな構成員として、外国の方を積極的に受け入れれば良いのではないかと考えた。仮説としては、私達が外国の方に対しての偏見をなくすこと(両者の間にはどうい壁があるか、どうすればなくすことができるかを考えた上で)、外国の方が地域の構成員として位置づけられる方法を考えていくことで、地域の活性化につながるのではないかと考えている。</p>	
高松農業	<p>100年フード「くさぎ菜」の現代社会での利活用に向けての取り組み</p> <p>クサギは臭木と表示するように、特有の強いにおいがある植物である。そのためか、あまり食用として利用は知られていないが、吉備中央町などの地域では、古くから「くさぎ菜」として食べられてきた。昨年度「100年フード」に認定された事から、その再認識と効能を確認する目的で、吉備中央町からの依頼を受けて研究に取り組み、家畜の飼料としての活用と畜産物利用について研究した。</p>	
岡山南	<p>自分ごととして「岡山の未来」を考える</p> <p>地方創生が叫ばれ、地方都市岡山でも新たな取り組みが行われている。「魅力と賑わいのある中心市街地の創出」をコンセプトにして岡山市再開発が行われている。「岡山市」は今後どうあるべきかという問いを立て、本校生徒を対象にしたアンケートや駅前商店街・杜の街グレースでのフィールドワークを行った。さらに、「岡山の未来」をテーマにした新聞を制作し、わが街の未来に向けて高校生ができることは何かについて提案する。</p>	
倉敷青陵B	<p>画像処理AIを用いた物体検出 ～Chromebookでやってみた～</p> <p>労働力不足は日本の大きな社会課題となっており、私達の多くが社会で活躍する2030年には644万人の人手不足が予測されている。AI技術による物体検出は、製品検査、入退出管理、警備など応用範囲が広く様々なサービスが提供されAIと人の協働が進んでいる分野である。本探究活動では、私達が日々の学習で利用している端末で自分たちにできることを模索しながら、AI物体検出を試みた。</p>	
倉敷南B	<p>最強の自作電池は何だ!</p> <p>ミニカーを走らせるために、自作の電池をつくり研究を行った。まず、電池の種類を決定するために活性炭電池、マンガン電池、ダニエル電池の比較を行った。その結果、ダニエル電池が安定していることが分かった。次に、寒天を用いたダニエル電池の作成を行ったが、先行事例のように安定した電力を得ることはできなかった。最終的に、亜鉛板と銅板を用いた積層型のダニエル電池を使用し、ミニカーを動かした。</p>	

玉島B	<p>混雑状況が分かるシステム</p> <p>文化祭の中で非常に混雑し待ち時間が長くなってしまった場所があり、全てのブースを体験できなかった。そこで限られた時間で多くのブースを楽しむために、学校の混雑状況が分かるシステムをつくろうと考えた。高校生が普段使っているChromebookに接続したカメラで人の顔を認識させ、事前に組み立てたプログラムを実行しながら人数を数えることで、混雑状況を確認するシステムをつくり、その有用性を検証した。</p>
水島工業	<p>生物の生態系と学校生活の変化の関係</p> <p>学校周辺の溝掃除に中止を訴える生徒が現れる。掃除は地域をきれいにできる立派な活動だが、5月と10月は生物たちの産卵期であり、生態系を壊すと主張する。では両者を満たすためにはどうすればよいのか。SDGsが叫ばれる中、地域清掃は生物の捕獲と並行して行われ、きれいな溝に生き物たちは帰って行く行事に変化した。そして次は校内の水辺づくりで生徒の生活を変えようと考えている。</p>
倉敷商業	<p>民間初の『倉敷天文台』が、地元倉敷の人にも知られていないことを知り、残念に思う高校生が倉敷天文台の認知度を上げるために取り組んだことの第2弾。</p> <p>昨年度からの取り組みを継承している。今年度は「倉敷天文台を認知してもらうには、とにかく人を呼び込むことが必要。そのためには、天文台施設を生かして夜にマルシェを開催すれば良いのではないか」という仮説を立て、倉敷生が倉敷天文台で行う新たなイベントを企画して、実施した。どんな催しがあれば、来てもらえるのか、どんな方法で知ってもらうと足を運んでもらえるのか、グループごとに考え取り組んだことを発表する。</p>
津山商業	<p>阿波を活気づける！</p> <p>自分たちが現地を訪れてみて感じたことや課題の考察。今年度、8月に津山商業高校主催で、津山市阿波森林公園で行ったウォーターサバゲーイベントの様子から学んだこと。自然豊かな阿波で施設・場所を活かしたアスレチック・映えスポット・動物との触れ合いイベントなど、新企画の提案。</p>
総社南B	<p>虹色リボンで多様性を認める世界へ</p> <p>同性婚や登録パートナーシップなど同性カップルの権利を保障する制度は、22年前から認められている国もあるが、日本ではまだである。性別によって結婚が制限されるというのは当たり前なのか改めて考えてもらいたい。プライド月間に合わせて虹色リボンを着用するなど、LGBTQ+を身近に感じてもらう取り組みを行った。</p>

勝山	<p>真庭市の子育て支援について考える</p> <p>私達は真庭市が抱える課題に興味を抱き調べた。その際に一番興味を引いたのが人口減少問題であった。また、なぜ地方の人口が減少してしまうのかを調べたときに、人口減少問題解決に力を入れている奈義町と真庭市とを比べ、子育て支援に差があることに気が付いた。今回は真庭市の現状を踏まえ、奈義町の取り組みを通して真庭市の子育て支援が充実するような方法を私達なりに考えまとめた発表である。</p>
真庭	<p>真庭組子で地域連携</p> <p>日本の伝統技術である「組子」を知り、興味を持った。真庭市内の企業が組子を製造しており、自らその技術を学ぶため高校・企業間で連携活動を行った。また、材料の木材生産についても森林大学校や地域の植樹活動に参加し体験活動を行った。自ら学ぶとともに次の世代へつなげるため小学校への出前授業を計画し、組子および林業を軸にした地域連携学習を行っている。</p>
鴨方B	<p>一石三鳥 ～癒やしの香水プロジェクト～</p> <p>多忙な日々を送る日本人にとって癒やしの時間はとても大切である。そんな中で私が考えたのは「一石三鳥の香水プロジェクト」である。それぞれの観光名所にちなんだ香水を開発し、訪れた観光客が香りに癒やされながら地域の名産品や文化施設に触れる機会をもつことで、さらなる地域の魅力化と活性化に繋げたい。このプロジェクトを立案した経緯と、取り組みによって得られた成果について発表する。</p>
矢掛B	<p>「コノヒトカン」でフードロスを勉強しよう</p> <p>私たちが行った、フードロス削減に向けた取り組みを紹介する。</p> <p>今年度、一般社団法人コノヒトカンが主催した、フードロスや貧困問題解決のために展開する「コノヒトカンプロジェクト」で賞をいただき、プロジェクトを行う機会を得た。矢掛町内の小学校で行われる調理実習で「コノヒトカン」を活用していただいたり、矢掛中学校内にフードロス削減啓発のための展示スペースを設けていただいたりした。</p>
高梁中学校	<p>「高梁未来学」～地域貢献プロジェクト～</p> <p>「高梁未来学」は、地域を学習のフィールドとし、地域と協働して地域の未来と自分の将来・生き方について考えることを目的とした3年間を通じた学習である。3年生では、「高梁未来学」のまとめとして、地域の課題に向き合い解決する「地域貢献プロジェクト」を行う。今年度は、6分野20グループに分かれ、事業所や団体と協働し、課題解決に取り組んだ。代表グループがその取り組みについて、活動の様子や気づいたことを発表する。</p>